

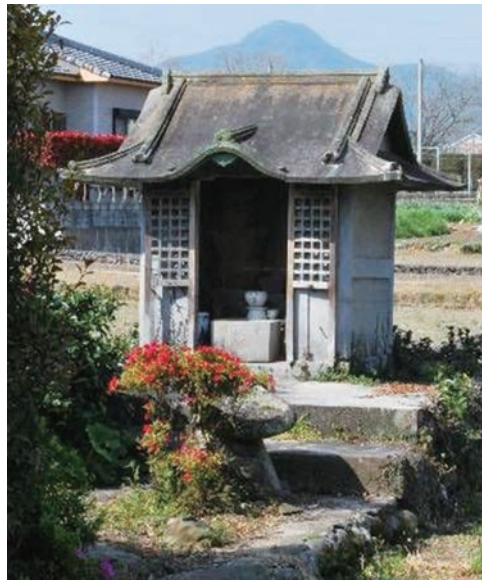


## 寛蓮石碑

橘良利(寛蓮)は平安時代の人で、当代随一の囲碁の名人であったことから碁聖と呼ばれました。「碁聖」は傑出した囲碁の名人に対する尊称で、現代の囲碁の7大タイトル戦の一つともなっています。鹿島市では寛蓮の故郷にちなんで、1952(昭和27)年から毎年春に祐徳稲荷神社において「祐徳本因坊戦」が開催されています。祐徳稲荷神社外苑には『碁聖寛蓮之碑』があり、台座には歴代本因坊の名が刻まれています。

### 寛蓮の逸話

寛蓮は囲碁の名手であったため、その逸話が『今昔物語集』に2度登場します。一つは、醍醐天皇を寛蓮がやりこめるとい話です。醍醐天皇は歴代の天皇の中でも最強の囲碁の打ち手で、よく禁中(宮中)に寛蓮を呼び寄せて対局していたのですが、賭け物の「黄金の枕」を与えては取り返すということを繰り返します。そこで一計を案じた寛蓮は、天皇の裏をかき、まんまと賭け物の「黄金の枕」を手に入れ、寛蓮はそれを元に弥勒寺を建立したということです。もう一つは、無敵の寛蓮が、見知らぬ貴婦人に完膚なきまでに叩きのめされ、ほうほうの体で逃げ帰ったというもの。この貴婦人は変化のもの(妖怪)であったと噂されたそうです。



## 橘園

鹿島藩4代藩主鍋島直條がまとめた『鹿島志』では、『橘園』は橘氏一族にゆかりのある場所で、肥前藤津出身の歌人で囲碁の名人でもあった橘良利(寛蓮)の旧居ではないかと推定しています。現在は江戸時代初期のものと考えられる有耳五輪塔が2基と、1701(元禄14)年に建てられた大神宮の自然石塔が1基建っています。



## 誕生院

誕生院は真言宗の復興に力を注ぎ、新義真言宗の開祖ともなった「興教大師覚鑿(かくばん)」生誕の地に建てられた寺院です。1405(応永12)年に創建されましたが、中世に兵火で焼けた後は長い間寺は無く、「誕生院」や「覚鑿屋敷」という地名だけが残っていました。1913(大正2)年に鹿島藩13代藩主鍋島直彬ら有志によって再興されました。

